



平嶋 泰之(ひらしま・やすゆき)氏
静岡がんセンター婦人科部長
沼津市出身。1986年三重大学医学部卒業。86年浜松医科大学産婦人科、88年国立東静岡病院(現静岡医療センター)産婦人科医長。08年同部長。日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会専門医、がん治療認定医。

ウイルスで起きるがん

子宮がんには、子宮の入り口(子宮頸)で起きる子宮頸がん(けい)が中心で、子宮の奥にできる子宮体がんの2種類があります。

子宮頸がんというのは、子宮の入り口の部分から発生するがんのことです。

多産、性交渉の相手が多い、初交年齢が若い、喫煙する、といった人にも

子宮頸がんのほとんどは、HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染によるものと

はありますが、中には、子宮頸がんのほとんどは、

子宮頸がんのほとんどは、

子宮頸がんのほとんどは、

子宮頸がんのほとんどは、

子宮頸がんのほとんどは、

子宮頸がんのほとんどは、

子宮がんの最新情報

静岡県がんセンター 婦人科部長 平嶋 泰之氏

のがんが多いとされています。しかし、これは疫学的に引き出された傾向を表し、多産や、性交渉の相手が多いことが原因で子宮頸がんになるといってO種類ほどありますが、これらががんになるわけ

ではなく、感染したウイルスのタイプ、本人の免疫機構などの要因が重なって発がんするときです。HPVには約100種類ほどありますが、これら

すべてが、がんを引き起こすわけではありません。「伝染する」という原因になっているものは「昔の異性関係が原因だろ」と思い込み、夫婦間に亀裂が生じることも時々見受けま

す。性行為によってウイルスに感染するといくと、年配者などは「性病をイメージしますが、これは間違った認識です。なせなら、HPVは私たちが体の表面など、どこにでも存在するありふれたウイルスで

くても感染します。女性の10人に8人は、生涯に一度はHPVに感染するという調査結果もあるほどです。つまりほとんどの人はHPVに感染するのです

が、感染自体は病気ではありません。ウイルスタイプ、免疫力の低下など複合要因から、その一部の人だけが持続感染となり、さらにその一部の人に子宮頸がん、男性では陰茎がん、あるいは肛門がん、口の中のがんなどが発症するのです。

感染は病気ではない

有効なワクチン接種

原因で起こり、この事実を窺った独がん研究センターのハラルド・ツア・ハウゼン博士が2008年のノーベル医学生理学賞を受賞しました。

HPVは、ほとんどの場合、性交渉によって感染しますが、感染した人すべてががんになるわけ

でなく、感染したウイルスのタイプ、本人の免疫機構などの要因が重なって発がんするとき

原因は性行為開始の低年齢化です。早期に性行為を開始する

HPVに対するワクチンは、子宮頸がんの発生を抑制する効果が期待されています。

HPVに感染することは病気に発展していません。女性が発がんする

感染して私にはがんになったのではないかと、不安に感じている人が多いです。HPVに感染している人が、子宮頸がんを発症する確率は、約1%とされています。

子宮頸がんの発生は、HPVに感染している人が、子宮頸がんを発症する確率は、約1%とされています。

子宮頸がんの発生は、HPVに感染している人が、子宮頸がんを発症する確率は、約1%とされています。

子宮頸がんの発生は、HPVに感染している人が、子宮頸がんを発症する確率は、約1%とされています。

子宮頸がんの発生は、HPVに感染している人が、子宮頸がんを発症する確率は、約1%とされています。

子宮頸がんの発生は、HPVに感染している人が、子宮頸がんを発症する確率は、約1%とされています。

がんを学ぶ ~予防と検診から~

静岡県立静岡がんセンター公開講座第5弾「がんを学ぶ~予防と検診から~」(静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、県立静岡がんセンター共催、スルガ銀行特別協賛)の第6回講座が2月28日、三島市民文化会館で開講し、平嶋泰之産婦人科部長と、坂田和之循環器科部長が、子宮がんの最新情報、心臓病とがん治療をテーマにそれぞれ講演し、会場からの質問にも応答しました。その概要をお伝えします。

〈企画・制作/静岡新聞社営業局〉

がん治療に多大な影響

がんと心臓病は、いずれも日本人の死因の1位、2位を占める疾患です。そして、当たり前のごとく、がんであるから心臓病にはならないということと全くなく、近年は心臓病を併発するがんの割合が非常に高くなっています。

がんの進行や治療の副作用を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

心臓病とがん治療

県立静岡がんセンター 診察管理監兼循環器科 部長 坂田 和之氏

がんと心臓病は、いずれも日本人の死因の1位、2位を占める疾患です。そして、当たり前のごとく、がんであるから心臓病にはならないということと全くなく、近年は心臓病を併発するがんの割合が非常に高くなっています。

がんの進行や治療の副作用を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓

術を受ける場合、どういった事態が起こりうるかと言った、術中あるいは術後に、急激な血圧低下や心拍数の変化、不整脈などを引き起こすことがあります。それらから、心臓



坂田 和之(さかた・かずゆき)氏
静岡がんセンター診察管理監 兼 循環器科 部長
天城湯ヶ島(現伊豆市)出身。1983年金沢大学医学部卒業、91年浜松医科大学取得。95年静岡県立病院循環器科医長、2000年同院核医学科総括医長。02年県立静岡がんセンター循環器科部長、05年から現職。専門分野は心臓画像診断、心血管内治療および動脈血栓症。核医学専門医、循環器専門医。

のがんが多いとされています。しかし、これは疫学的に引き出された傾向を表し、多産や、性交渉の相手が多いことが原因で子宮頸がんになるといってO種類ほどありますが、これらががんになるわけ

ではなく、感染したウイルスのタイプ、本人の免疫機構などの要因が重なって発がんするときです。HPVには約100種類ほどありますが、これら

すべてが、がんを引き起こすわけではありません。「伝染する」という原因になっているものは「昔の異性関係が原因だろ」と思い込み、夫婦間に亀裂が生じることも時々見受けま

す。性行為によってウイルスに感染するといくと、年配者などは「性病をイメージしますが、これは間違った認識です。なせなら、HPVは私たちが体の表面など、どこにでも存在するありふれたウイルスで

くても感染します。女性の10人に8人は、生涯に一度はHPVに感染するという調査結果もあるほどです。つまりほとんどの人はHPVに感染するのです

が、感染自体は病気ではありません。ウイルスタイプ、免疫力の低下など複合要因から、その一部の人だけが持続感染となり、さらにその一部の人に子宮頸がん、男性では陰茎がん、あるいは肛門がん、口の中のがんなどが発症するのです。

質疑応答

タウナーミーティング
当日寄せられた質問を中心に質疑応答が行われました。紙面の都合により本講座の内容に即した質問事項をまとめました。

質問 18年前に子宮の摘出手術を受けましたが、今後、子宮がんのリスクはありませんか。
平嶋 子宮を全部取っているのであれば子宮がんにはなりません、卵巣を残している場合、卵巣がんの危険性はありますので、年に一度は、婦人科を受診されるとよいでしょう。現在ではほとんど行われませんが、以前には子宮頸部は残して子宮体部だけ

がん患者特有の心疾患

がん治療に多大な影響を及ぼす心臓病ですが、心臓病と一口に言ってもその種類はさまざまです。実際にどういった心臓

がん治療に多大な影響を及ぼす心臓病ですが、心臓病と一口に言ってもその種類はさまざまです。実際にどういった心臓

がん治療に多大な影響を及ぼす心臓病ですが、心臓病と一口に言ってもその種類はさまざまです。実際にどういった心臓

がん治療に多大な影響を及ぼす心臓病ですが、心臓病と一口に言ってもその種類はさまざまです。実際にどういった心臓

がん治療に多大な影響を及ぼす心臓病ですが、心臓病と一口に言ってもその種類はさまざまです。実際にどういった心臓

がん治療に多大な影響を及ぼす心臓病ですが、心臓病と一口に言ってもその種類はさまざまです。実際にどういった心臓

急増する子宮体がん

子宮体がんは、子宮内膜からできてくるがんです。年齢分布は閉経前後の50代にピークがあります。これは昔から変わ

子宮体がんは、子宮内膜からできてくるがんです。年齢分布は閉経前後の50代にピークがあります。これは昔から変わ

子宮体がんは、子宮内膜からできてくるがんです。年齢分布は閉経前後の50代にピークがあります。これは昔から変わ

子宮体がんは、子宮内膜からできてくるがんです。年齢分布は閉経前後の50代にピークがあります。これは昔から変わ

子宮体がんは、子宮内膜からできてくるがんです。年齢分布は閉経前後の50代にピークがあります。これは昔から変わ

日々予防の意識を

心臓病の治療(冠動脈バイパス手術と冠動脈内カテーテル治療)をがん手術の前に行うことで最も問題となるのは、がん治療を早期に行わなくてはならない場合でも、当センターのデータでは、約2カ月のがん手術の延期が余儀なくされています。さらに、そうしてがん治療を遅らせ心臓病を治療したとしても、その後がんの手術を中止せざるを得ない方、本

心臓病の治療(冠動脈バイパス手術と冠動脈内カテーテル治療)をがん手術の前に行うことで最も問題となるのは、がん治療を早期に行わなくてはならない場合でも、当センターのデータでは、約2カ月のがん手術の延期が余儀なくされています。さらに、そうしてがん治療を遅らせ心臓病を治療したとしても、その後がんの手術を中止せざるを得ない方、本

心臓病の治療(冠動脈バイパス手術と冠動脈内カテーテル治療)をがん手術の前に行うことで最も問題となるのは、がん治療を早期に行わなくてはならない場合でも、当センターのデータでは、約2カ月のがん手術の延期が余儀なくされています。さらに、そうしてがん治療を遅らせ心臓病を治療したとしても、その後がんの手術を中止せざるを得ない方、本

心臓病の治療(冠動脈バイパス手術と冠動脈内カテーテル治療)をがん手術の前に行うことで最も問題となるのは、がん治療を早期に行わなくてはならない場合でも、当センターのデータでは、約2カ月のがん手術の延期が余儀なくされています。さらに、そうしてがん治療を遅らせ心臓病を治療したとしても、その後がんの手術を中止せざるを得ない方、本

肥満、未産婦、閉経前後の

出血、閉経が遅い、糖尿病、高血圧症状がある、子宮体がんになりやすいと言われている。不正性器出血などがあつたときには、頸部の検診だけでなく、体部の検診も積極的に受けてください。

がんに対して、最新技術を用いた治療法が開発されています。しかし、早期発見、早期治療にまざるものはありません。禁煙や食事内容改善など、がんになりやすい生活様式にあらため、検診を定期的に行うことが大切です。

がんに対して、最新技術を用いた治療法が開発されています。しかし、早期発見、早期治療にまざるものはありません。禁煙や食事内容改善など、がんになりやすい生活様式にあらため、検診を定期的に行うことが大切です。